

研究結果報告書

分野別語彙ランキングリストによる日本語学習効果の測定

所属： ハノイ工科大学 HEDSPI（日本語ができる高度 IT 人材育成）プロジェクト
役職： 講師
氏名： グエン・タイン・コン（他 1 名）

ハノイ工科大学 HEDSPI プロジェクトは日本語と IT を 5 年間で学ぶ学部である。学生は当初モチベーション高く日本語学習に取り組むが、年度を経るにつれて全体的に意欲が下がる傾向にある。学生への聴き取り調査をした結果、以下の課題があることがわかった。

1. 1～2年生のカリキュラムが文法に重きを置いており、語彙が効率的に増えないため日本語を読むことができず、やる気が下がっていく。
2. 3年生後半から情報処理技術者試験対策参考書の専門語彙が一気に増えて消化不良気味となり、面白さを感じられない学生が増大する。

5年生になって現場を模した IT のプロジェクトワークを実施するが、意欲的な学生がいる反面、惰性で授業に参加している学生が 8 割もいるという現状が課題となっている。HEDSPI プロジェクトの卒業生の多くは日系 IT 企業に就職するため、特に IT に関連する語彙を効率的に増やすことが有効であると考えられる。

- IT 現場でよく使われる頻出語彙は何か？
- どのような語彙を最初に習得すれば日本語学習に有利なのか？

上記の回答を得るためインターネット上からニュース等のテキストデータを収集し、ビッグデータ解析により頻出ランキングの取得を行った。

1. IT 系の語彙ランキングを作成するために、一般日本語におけるサイトと IT 系サイトから語彙の順位の上昇するものを抽出した。客観的な IT 系語彙ランキングリストにより、学習者や教師のためにどんな語彙から学習すべきかを明確に示すことができている。
2. 抽出した IT 系語彙のランキング 1000 位までに出現した動詞に着目して、その動詞が旧 J L P T 日本語試験の語彙難易度（4 級～1 級、級外）なのかの調査を実施した。300 位までに出現する動詞 110 語中の 94% が 2 級以上、級外であり、初級での学習には必須となる。また、3000 位までに出現する動詞 709 語中の 95% が 2 級以上、級外の語彙であることから、初級レベルでこのような語彙を憶えることができれば、2 級や 1 級レベルの学習をしながらも学習者は IT の現場で充分活躍することが可能になることがわかった。特に IT の現場では高度な文法や文型とは無縁であるため、優先的に覚えるべき語彙の順番を明確化することで、初級レベルの語彙でも充分であることがわかった。
3. 今後この手法を用いて他の専門分野の専門語彙を抽出することが可能となるので、専門日本語の学習者や教師に貢献できる。大量の電子文書であればあるほど精度も向上する。
4. 今回の成果を <http://itjapanese.com/> という学習サイトとして公開した。現在多くの学習者がこのサイトを継続的に利用しており、今後も継続して学習効果を測定する予定である。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「IT系専門語彙ランキングリストの作成とその効用について」(2015年度専門日本語教育学会誌掲載予定)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

無償学習サイト <http://itjapanese.com/> にて公開中。